

委員会報告

ACECC TC21の分野・部門横断的アプローチによる災害に強い社会づくりに向けた取り組み — 世界防災フォーラム2019におけるTC21のセッション開催報告 —

ACECC TC21国内支援委員会 幹事長
倉岡 千郎 (正会員 日本工営(株) 中央研究所)

はじめに： ACECC TC21とは

防災の計画立案・実施の意思決定過程において科学的知見を反映する重要性は明らかである。しかし、科学技術の進歩にもかかわらず国内外で災害が増加して

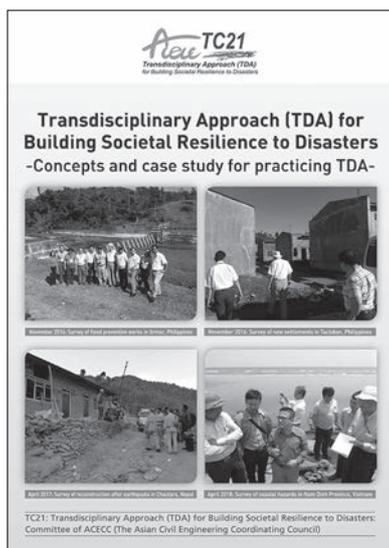


図1 TC21報告書(2016-2019)の表紙

であると考え、事例調査やシンポジウムを通してTDAの必要性や効果を整理し共有を図ってきた。本稿では世界防災フォーラム2019 (World Bosai Forum : WBF) で開催させていただいたTC21のセッションについて報告する。また、TC21

の活動の成果品(図1…書籍形式の報告書)を含む各種情報は、ACECC TC21およびACECC TC21国内支援委員会サイトに公開している⁽¹⁾⁽²⁾。

世界防災フォーラム (World Bosai Forum : WBF)⁽⁴⁾

スイスの防災ダボス会議と連携し、国内外から防災関係者が集まる日本発の国際フォーラムである。防災ダボス会議が欧米の防災専門家中心であるのに対し、本フォーラムは、アジアに重点を置き、広く市民も参加できるといふ特徴がある。東日本震災に関する知見の共有や防災の具体的な解決策の創出等を踏まえ、「仙台防災枠組2015-2030」の推進および「BOSAI」の主流化を仙台から世界へ浸透させることを目指している。2017年の初会合では、42カ国・地域から947名の方が参加した。今回(令和元年11月9日~12日)は2回目となり仙台国際センターにて開催された。

TC21のセッションの概要

本セッションはTDAの必要性と今後の適用について議論することを目的

表1 世界防災フォーラム2019におけるTC21の講演・討議

講演タイトル	講演者
Keynote: Lessons from Typhoon Haiyan: A Multi-Sectoral and Transdisciplinary Approach to Disaster Risk Management	Congressman Romeo S. Momo (TC21 Co-chair; Construction Workers Solidarity, the Philippines)
Outcome of TC21 Activities from 2016- 2019	Senro Kuraoka (TC21 Secretary; Nippon KOEI Co., Ltd., Japan)
Kyushu University Build Back Better Support Activities on Flood Disaster of North Kyushu Region in 2017	Kenichi Tsukahara (TC21 Secretary General; Kyushu University, Japan)
Collaboration and Partnership on Disaster Recovery and Management	Sumedi Andono Mulyo (Director for Regional Development, BAPPENAS, Indonesia)
Efforts towards Building Community Resilience to Disasters after 2015 Gorkha Earthquake in Nepal	Youb Raj Paudyal (TC21 Member; National Reconstruction Authority, Nepal)
Reducing future disaster risk in Malaysia: A Transdisciplinary Approach	Khamarrul Azahari Razak (TC21 Member; Universiti Teknologi Malaysia (UTM), Malaysia)
Role of TC21 for the implementation of the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction	Takako Izumi (TC21 Member; Tohoku University, Japan)
Panel discussion	Facilitator: Mikio Ishiwatari (TC21 Co-chair; the University of Tokyo / JICA)

として開催された。TC21の荒木田委員の司会のもと、共同議長であるフィリピンのRomeo Momo国会議員の基調講演から始まり、国内外のメンバーのご発表を得て、石渡共同議長の進行によりパネルディスカッションを行った(表1)。海外からは、Momo議員の他、インドネシ

アBAPENS(国家開発省)のSumetti Andono Mulyo氏、ネパール復興庁のPaudyal Youb氏、マレーシア工科大学のKhanarzul Razak氏からTDAの必要性や事例に関する発表をいただいた。

セッションの成果… 共有できた知見の例

まず、TDAの必要性を強調したMomo



写真1 TC21 セッションの様子(右:フィリピン国会議員Romeo S.Momo共同議長)

議員の基調講演を引用したい。災害の増加・拡大の要因である気候変動、都市開発、貧富・格差等のなかで、都市開発の傾向に言及された。すなわち、英国のInstitutions of Mechanical Engineersの統計的な推定⁽⁵⁾によれば、平均的に18万人/日が都市の中心部に移動し、2050年までに世界の75%の人口が自然災害に見舞われる可能性のある都市域に居住する可能性が述べられている。このことは、都市開発の計画・実施の意思決定に課題があることを示唆しており、筆者が聴講したPlenaryセッションで聞かれた、「We need to protect development from development」という印象的な言葉と重なる。また、Momo議員は、日本の事例を引用して、過去の教訓も重要な科学的知見であることを明瞭にされた。岩手県普代村の高さ15・5mの防潮堤(1984年完成)が、2011年の津波から人々と町を守った。この堤防の高さは、過大であるとの批判も強かったらしいが、昭和三陸地震からさらに遡る1896年の明治三陸地震の津波の記録と経験に基づいて、和村幸得市長の信念によって実現した。まさに、過去の教訓が科学的知見として対策の意思決定に反映された例ではないか。

さらに意義の高い発表が続いた。い

れのご発表においても、知識を実際に活用するKnowledge-flowに係る取り組みやスキームが述べられていた。課題として、データ・知識を記録して伝えていく重要性は、理解はできていても実施は必ずしも十分でない、との指摘があった。そして、その解決に触れた発表が続いた。一つには教育から変えていく必要性が述べられた。例えば、インドネシアでは、大学の教育プログラムに防災の講座を設立している。マレーシアとインドネシアの方々の発表では、大学が地域社会に知識とノウハウを伝えていく活動が紹介された。インドネシアでは、ある大学が地方の行政機関の復興活動を支援している。この活動は九州大学が実施した復興計画づくりの自治体への支援(表1の3番目)と同様であり、先駆的な取り組みである。また、ネパールの方からは、伝統的な知恵と近代科学による新たな建築技術の構築と伝承に係る活動が述べられた。以上より、Knowledge-flowは、学校での教育、地域でのワークショップや支援、技術者の養成の形で実現されていることが理解された。コメンテーターである竹内邦良山梨大学名誉教授や会場を含めた質疑応答においても、いかに地域社会を活動に組み込んでいくか、が議論された。



写真2 TC21 セッション終了後のグループ写真(中央:Momo共同議長と石波共同議長)

謝辞:本TC21のセッションは、公益信託土木学会学術交流基金の助成により実施できました。多大なご支援、ご指導に謝意を表します。

参考文献

- (1) ACECC TC21委員会(英文): <http://www.acecc-world.org/TC21/>
- (2) ACECC TC21国内支援委員会(和文): <http://committeesjsec.or.jp/acecc02/>
- (3) ACECC TC21国内支援委員会編集: Transdisciplinary Approach (TDA) for building Societal Resilience to Disasters, 2019. ISBN: 978-4-8106-1014-7
- (4) 世界防災フォーラム2019: <http://www.worldbosaiforum.com/2019/>
- (5) Institution of Mechanical Engineers: Natural Disasters. Saving lives today building resilience for tomorrow, 2013.